

ISSN 1881-4018

Information
Communication
Technology
Practice
&
Research
2013

2013年度

ICT授業実践報告書

発行者

大学英語教育学会JACET-ICT調査研究特別委員会

大学英語教育学会JACET-ICT調査研究特別委員会

Information Communication Technology Practice & Research 2013 2013 年度 ICT 授業実践報告書

Table of Contents

はじめに	1
活動報告	2
組織	4
PART 1: 寄稿論文	
語彙機能文法を応用した日本人英語学習者の文法的誤りの自動検出	7
石井 雄隆 (早稲田大学大学院博士後期課程)	
Summary Writing Exercises Based on Text-Based Online Chat Sessions in an Undergraduate EFL Writing Class	21
Yasuyo Sawaki (Waseda University)	
英語学習に有用なオーサリング・ツールの導入: iBooks Author を利用した大学 英語教育向けデジタル教科書作成の試み (基礎編)	31
吉田 諭史 (早稲田大学) 大和田 和治 (東京音楽大学)	
英語学習に有用なオーサリング・ツールの導入: iBooks Author を利用した大学 英語教育向けデジタル教科書作成の試み (実践編)	43
大和田 和治 (東京音楽大学) 吉田 諭史 (早稲田大学)	
PART 2: RELC-PAAL International Symposium of World Englishes	
English as a National, Regional and International Language: Future Directions for Malaysia	55
Azirah Hashim (University of Malaya)	
Taiwan English: Manipulation of Linguistic Resources in the Catering Sector	63
Li-ying Wu (Wenzao Ursuline University of Languages)	

Towards a Subject-Oriented Account of the “NP V LEI LE NP” Resultative Construction.....	69
XIONG Xueliang (Fudan University) WEI Wei (East China Institute of Technology)	
The Impulses of ‘Transnationalism’ and ‘Globalisation’ of English within Global Popular Music.....	77
Andrew Moody (University of Macau)	
Learners’ Characteristics and a Genre-Based Approach to Academic Writing	89
Sayako Maswana (Waseda University)	

はじめに

2013年度のJACET-ICT調査研究特別委員会の実践報告をお届けいたします。2013年度は印刷補助費が社団法人大学英語教育学会からはいただけませんでしたが、2007年度より毎年報告書を出版しており、ここでやめてしまうのは残念なことであります。今回は早稲田大学のプロジェクト研究所の一つであるCCDL Research Centerより、印刷費を出していただきましたことをご報告致します。

この報告書の構成は次のようになっております。

- 1 2013年度のJACET-ICT調査研究特別委員会の実践概要
- 2 組織
- 3 JACET-ICT、LET 関東、FOLC-CCDLの3団体からの寄稿論文
- 4 RELC-PAAL International Symposium 寄稿論文

幸い2013年度、2014年度も今までの活動を継続してよいという許可が理事会より出されました。今後ますますICTの活用授業が世界的な傾向となると思われます。皆様の今後さらなるご協力を期待いたします。

JACET-ICT 調査研究特別委員会 担当理事
中野 美知子

ICT調査研究特別委員会科 2013 年度活動報告

①シンポジウムの開催

名称	平成 25 年度 JACET-ICT 調査研究特別委員会特別企画：英語学習に有用なオーサリング・ツールの導入、JACET-ICT Symposium: An Introduction to Easy-to-Use Authoring Tools for Tertiary English
日時	平成 25 年 6 月 16 日、平成 25 年 9 月 1 日
場所	青山学院大学、京都大学
目的	全国で行われている ICT を活用した語学授業実践の最前線について発表し、情報を交換する場を設けた。
対象	全国の JACET 会員、LET 関東支部会員、オンデマンド授業流通フォーラム会員、その他 ICT を利用した語学教育に関心のある方
規模	約 50 人
広報	ICT 調査研究特別委員会のメーリングリストとホームページ、JACET のメーリングリスト、LET 関東支部のメーリングリストなどで開催を通知した。
内容	ICT を活用した語学教育の実践・評価・理論を今後の発展につなげていける活動内容とした。
成果	本特別委員会はこれまで、青山学院大学で行われているモバイル学習や、早稲田大学の異文化交流授業、山形大学の Vodcasting など、各大学で行われている特殊な取り組みに関して一同に集まって情報交換をする場を設けてきた。また、まだ取り組みを始めていない教員に対しては「今日からできる ICT 活用法シリーズ」講習会を設けて、初めの一步を踏み出せるよう、ICT 利用の全国的な底上げに力を入れてきた。平成 23 年度の講演会も、各大学の新たな取り組みや成果について学び合い、全国的な輪を広げていった。講演会での発表内容は、例年通り、報告書として論文集にまとめた。

②講演会の開催

名称	次世代 e-Learning Forum (JACET-ICT 調査研究特別委員会関東支部後援)
日時	11 月 19 日、3 月 18 日
場所	早稲田大学、青山学院大学
目的	ICT を利用した語学教育についての講演会を青山学院大学ヒューマン・イノベーション研究センターやデジタルキャンパスコンソーシアム会員と共同で行うことで、ICT 調査研究特別委員会の活動を広げた。
対象	JACET 会員、青山学院大学ヒューマン・イノベーション研究センター、デジタルキャンパスコンソーシアム会員
規模	50 人
広報	各支部の JACET メーリングリスト、ホームページ、ICT 調査研究特別委員会のメ

	ーリングリスト、早稲田大学遠隔教育センターのホームページで広報した。
内容	2009 年度 2010 年度に引き続き、九州・沖縄支部、中部支部、関東支部では ICT を授業に取り入れる方法に関する講習会やシンポジウムを依頼したが、2012 年度は関東支部のみの活動となった。
成果	JACET-ICT 調査研究特別委員会では、2007 年度以来、年に 2 回ずつ全国会員に向けた講習会・講演会を開催してきた。北海道や九州からも参加者はあるものの、大半の参加者は関東圏からであるため、本特別委員会の活動を全国的に広げるためには、支部単位で講習会・講演会を開催する必要がある。平成 22 年度に講演会を開催した 2 支部から、各地域での ICT 活用授業の実践状況が報告されることが期待できた。各支部からの報告および関東で行われる全体講演会の成果は、平成 23 年度に引き続き、24 年度の報告書に論文集としてまとめた。

③報告書の刊行

名称	平成 24 年度 JACET-ICT 調査研究特別委員会活動報告書
日時	平成 25 年 3 月 31 日 (予定)
目的	平成 24 年 9 月に開催したシンポジウムでの発表内容および、各支部講演会での発表内容を、参加者以外にも知らせるため、報告書にまとめた。ICT を活用した語学教育の現状を、2007 年度、2008 年度、2009 年度、2010 年度、2011 年、2012 年と年度ごとにまとめ、会員が参考にできるようにした。
対象	ICT 調査研究特別委員会会員と、全国の JACET 役員に配布する予定である。全国大会の会場でも配布する。
規模	300 冊 (約 100 ページ)
内容	報告書の具体的なタイトルと構成は、平成 24 年 9 月の全国大会の際に開催される合同会議にて決定した。ICT の各支部での講演会および全体講演会での発表者に原稿を依頼し、各支部に呼びかけ、ICT 利用に関する教育と研究の現状に関連した論文を支部ごとに収集していただいた。
成果	JACET-ICT 調査研究特別委員会の報告書は、研究論文ばかりではなく、各教員が授業に ICT をどのように取り入れているかについての報告も掲載している。報告書の形で毎年活動成果をまとめることにより、ICT 利用の発展や、各大学での取り組みがわかり、今後 ICT を語学授業に取り入れる者にとっての良い指針となっている。

JACET-ICT 調査研究特別委員会組織

担当理事 中野 美知子
委員長 下山 幸成
副委員長 (副) 見上 晃
(副) 上田 倫史

委員
西堀 ゆり
佐々木 勝志
尾田 智彦
村野井 仁
大和田 和治
近藤 悠介
見上 晃
上田 倫史
吉田 諭史
大森 裕實
倉橋 洋子
村尾 玲美
濱岡 美郎
筒井 英一郎
鈴木 千鶴子
安浪 誠祐
木下 正義

Information Communication Technology Practice & Research 2013 編集委員会

編集 マスワナ 紗矢子、中野 美知子

委員 中野 美知子、近藤 悠介、吉田諭史、大矢 政徳、下山 幸成

PART 1

寄稿論文

語彙機能文法を応用した日本人英語学習者の文法的誤りの自動検出 7
石井 雄隆 (早稲田大学大学院博士後期課程)

Summary Writing Exercises Based on Text-Based Online Chat Sessions in an
Undergraduate EFL Writing Class 21
Yasuyo Sawaki (Waseda University)

英語学習に有用なオーサリング・ツールの導入：iBooks Author を利用した大
学英語教育向けデジタル教科書作成の試み (基礎編) 31
吉田 諭史 (早稲田大学)
大和田 和治 (東京音楽大学)

英語学習に有用なオーサリング・ツールの導入：iBooks Author を利用した大
学英語教育向けデジタル教科書作成の試み (実践編) 43
大和田 和治 (東京音楽大学)
吉田 諭史 (早稲田大学)

2013年度 ICT 授業実践報告書

Information Communication Technology Practice & Research 2013

発行 2014年3月

編集・発行 大学英語教育学会 (JACET) ICT 調査研究特別委員会

代表者 中野 美知子

印刷所 株式会社トライ・エックス

JACET-ICT 調査研究特別委員会事務局

〒169-8050

東京都新宿区西早稲田 1-6-1

早稲田大学教育学部 中野美知子研究室内

TEL/FAX 03-5286-1558

<http://www.waseda.jp/assoc-ict/>

ISSN 1881-4018